

- 1 弥生時代、北部九州を中心に祭りの道具として使われた、やりのような形をした青銅器を何という？
 ① 銅矛 ② 銅鐸 ③ 銅剣 ④ 銅鉾
- 2 1世紀、後漢の時代に倭の奴国の王が使節を送った際に、その権威を認めて印を授けた皇帝を何という？
 ① 始皇帝 ② 玄宗 ③ 光武帝 ④ 武帝
- 3 弥生時代に祭礼の道具として用いられ、指導者の地位の高さを示す象徴となった釣鐘状の青銅器を何という？
 ① 銅矛 ② 鏡 ③ 銅剣 ④ 銅鐸
- 4 佐賀県に位置し、環濠集落の中でも大規模で、高床倉庫や物見やぐらが復元されていることで知られる遺跡は何という？
 ① 菜畑遺跡 ② 吉野ヶ里遺跡 ③ 登呂遺跡 ④ 唐古・鍵遺跡
- 5 福岡県の志賀島で発見され、1世紀に中国の皇帝から日本の王に贈られたことを示す重要な遺物を何という？
 ① 金印 ② 銅鏡 ③ 銅矛 ④ 銅鐸
- 6 弥生時代、奴国の使者が金印を授かった、当時の中国の王朝を何という？
 ① 隋 ② 魏 ③ 後漢 ④ 前漢
- 7 金印が作られた紀元1世紀頃、地中海を中心に繁栄していた当時の巨大な帝国を何という？
 ① パルティア ② クシャーナ朝 ③ マケドニア王国 ④ ローマ帝国
- 8 弥生時代において、祭礼や儀式を行うために用いられた道具のうち、銅鐸や銅鏡などを総称して何という？
 ① 土器 ② 青銅器 ③ 鉄器 ④ 石器
- 9 1世紀に日本の奴国の王から使者が送られた際、返礼として金印を授けた後漢の皇帝は誰？
 ① 武帝 ② 始皇帝 ③ 光武帝 ④ 玄宗
- 10 弥生時代に大陸から伝わり、武器としてではなく、祭祀や儀式の際に用いられた青銅製の釣り鐘型の道具を何という？
 ① 銅鐸 ② 銅剣 ③ 鏡 ④ 銅矛
- 11 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？
 ① 日本書紀 ② 古事記 ③ 風土記 ④ 魏志倭人伝
- 12 佐賀県にあり、周囲に濠（ほり）を巡らせた弥生時代の集落跡として知られる代表的な遺跡を何という？
 ① 三内丸山遺跡 ② 吉野ヶ里遺跡 ③ 登呂遺跡 ④ 大森貝塚
- 13 銅剣や銅矛が多く出土しており、銅鐸の主な出土地帯とは異なる特徴を持つ地域はどこ？
 ① 九州地方 ② 近畿地方 ③ 東北地方 ④ 中国地方
- 14 高床倉庫の柱に取り付けられた、ネズミが倉庫の中に侵入するのを防ぐための工夫を何という？
 ① 掘立柱 ② 茅葺き ③ ネズミ返し ④ 高床
- 15 『後漢書』東夷伝などの歴史書において、弥生時代の日本列島に多数存在していたとされる政治的なまとまりを何という？
 ① 倭国 ② 小国 ③ 邪馬台国 ④ 奴国



① 隠す

赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

② 言う

解説を読んで、用語を口に出す

③ 印を付ける

言えたら□にチェック

問	解説	▼ここで折る	答え	言えた
1	銅矛 は、九州地方で出土することが多い青銅製の武器型祭器です。		1 銅矛	☐
2	『後漢書』東夷伝によれば、57年に倭の奴国の使者が後漢の 光武帝 に謁見し、朝貢しました。		3 光武帝	☐
3	銅鐸 は青銅製の釣鐘状の道具で、当初は小型でしたが、次第に大型化しました。		4 銅鐸	☐
4	吉野ヶ里遺跡 は、周囲に深い堀（環濠）を巡らせ、外敵の侵入を防ぐ構造を持つ大規模な集落跡です。		2 吉野ヶ里遺跡	☐
5	1784年、福岡県の志賀島で農夫によって発見されました。		1 金印	☐
6	57年、九州の奴国の使者が中国の王朝である 後漢 の皇帝を訪れ、朝貢を行いました。		3 後漢	☐
7	ローマ帝国 は、地中海沿岸の全域を支配下に置き、高度な法整備や道路網、水道技術などを有していました。		4 ローマ帝国	☐
8	青銅器 は主に銅鐸や銅鏡、銅剣などに铸造され、それらが高い装飾性を持っていたことから、主に集落の祭礼や儀式、または権力者の威信を示すための道具として使われました。		2 青銅器	☐
9	当時の日本の「奴国」の王が、後漢の都に使者を派遣しました。それに対して、皇帝である 光武帝 は、親交のしるしとして「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けました。		3 光武帝	☐
10	銅鐸 は、主に近畿地方を中心に分布しており、弥生時代の村の共同体で行われる祭りや儀式に使われたと考えられています。		1 銅鐸	☐
11	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『 魏志倭人伝 』と呼ばれます。		4 魏志倭人伝	☐
12	吉野ヶ里遺跡 は、周囲に二重の環濠と柵をめぐらせた巨大な集落跡です。		2 吉野ヶ里遺跡	☐
13	青銅器の中でも、銅剣・銅矛は九州北部を中心とする西日本に、銅鐸は近畿地方を中心に多く出土し、文化圏がはっきり分かれていました。		1 九州地方	☐
14	柱の途中に板状の出っ張り（ ネズミ返し ）を取り付けることで、地面から登ってくるネズミがそれ以上進めないように工夫されていました。		3 ネズミ返し	☐
15	当時の日本は「百余りの 小国 」に分かれていたと『後漢書』などに記されています。		2 小国	☐

言えなかった用語ノート